国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 ヘ二-1

熊野大雲鳥より和歌浦迄之圖

紀伊道中巻物

第一巻

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

雷（みつち）船見峠

○小口　至清川三里　那智山より山伏まくの山道を小雲ヶ峰古山

胴切坂（どうぎりざか）　その傍

胴切坂　楠窪村

楠窪村

北ノ岩

小石川

小坂

小口

国立国会図書館　　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

山葉雲名若古の小
小口村の中ふ小石川小口川そ二つの
川あり小口河原より
小口川の北ふ岩石あり伊勢文川と
一の瀬ふある鶏石とよふ又

石堂村

桜茶屋
小口より女子衆め
山中ふかる
茶屋なり

桜茶屋

桜茶屋より五丁之坂を
登の元又平なり

石堂村

松畑村 此前の茶屋
の茶ふ連理桜あり

○

清川 至本宮
半里

此和右ハ熊野川九里八町
の川と本宮より新宮へ
乃下り船多く又荷物
をもたらたる船をもよく
春淀川高瀬舟のめ
熊野川第一名所なり
小雪綱船あり
川むひい事又の

松畑村

敷屋村

熊野川

従是小雲鳥坂

小口川

小坂

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

の川と本宮より新宮へ
乃下り船多く又荷物
をもたる船をもくだす
事淀川高瀬舟のごし
熊野川第一名所なり
小雪猿鶴飛ありて
川むかひ寺文の
川根村にて紙を漉
所なり

七越峯

土人いふ七かへらの
峯といふ山也某
立の杉Nのありふ
光かさなる七峰の峯

庵海神社

七越峯の東山ふもと
小生神名帳ふ海神社
三座とありし神をいふ
とぞ

○本宮 至湯峯
ホヤ町
又右道至伏拝
一里

音無里とも
もけ船こ音
無川といふ
三越山すそ

大峯川

少森
村一木
松本宮
村と続く
大宮ふ

川名
田川ふ

立日無天神
後白川院詣
和泉式部詣
本宮

岩田川

七越峯

張山村

敷屋村

熊野川

本宮道

本宮道

請川

請川渡

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

熊野本宮
左右十二社
殿擬門
和泉式部塔
石右河岸の
小竹故小栗
呼橋
小栗山
和当弥陀堂
傳田村將軍
鶴原禅尼再興
湯の坊小什
自筆の彩
元八先年奥
を安納セ

証誠殿天神地祇
社檀現とい
護摩堂
後白河院塔
音天神祠
碑甲山
名号
のあり音無川
花の橋
とい

人丈
の
たと
ふ
つ咲
詞し
の花白ハ
ちりセ
ぬる

武人馬上
ふくし
ふ
かし同人丈
又
花なら
る人の
なるたとへ

本宮より伏
拝村ふいさ
原和泉

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

かし向人ま

又

花なるかれ
てる人の向へさふ
なるうたなれ
はらひ色

和宮うり伏
拝村ふいさ
石の本和泉
武部の石格を
古代のこのく
高野辻うもそ
なー山ふかう大和道
を高野山ふ出る石
あり新宮こ熊野の
村ふ熊野のまし
法当寺坊の江
あり今屋を
風雅としよ
定家卿の旧月
江かもうり
又和宮うり湯峯
ふりうふ車坂とふ
を領う宮ふ小栗の
車を埋めとい坂を
小栗の車い湯峯大
竹よふ出うりかの
温泉ふ入うり
此の花うり伝
説あだて

三越山頂

湯峯 湯槽ロ有
谷とこ岩の中うり
湧浄の熱湯用
出ロうりの

明神

まて湯気立ぬり
此の花うり伝
説あだて

三越山頂

熊野河や岩の中も
わくらへる
湯のけなかもむ
あらの風ふ 二徹

桂原 赤部坂と称うこと之越山頂
ふて和尚と出合
この山の 至野中
道湯川 二里
熊瀬川女夫坂山石多く新宮へ
伴ふ

岩神王子間 後頼の句

道湯川

発心門

車坂

桂名茶屋

赤部坂

土橋

湯峯

東光寺

湯槽

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

○

逝露（ちつゆ） 至高原
二里十一町

さし前より嶮を
右のふもと逝露
又大坂王子村の
十丁ばかり許ふもと

土人云花山院の御為ゆかりと云

十丈村 大内川村の出戸なり大内川村ふ
永禄山為替もとりふ古き証ありと称する
釈仲算那智滝の下ふく般若を建て後
為参詣山ふ入くふ唯遺草鞋と即此

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

○高原　至芝　十里

十丈村　大内川村の北方なり大内川村ふ
永禽山為西もといふ古き寺ありと新書同
釈仲算那智滝の下ふく般若を建して後
為西山ふ入くふ也唯遺草鞋と即此

念佛渕
縦一町余横十間
許を相伝白川法皇
御幸の時鴨ども
の遠れ御報ふありし
を淵ともいへり

○芝　至中三栃　二里半

岩田川　古今多羅
石石利川

源ハ大内川村の山中
より出て石ふ利村
を経て瀬尾王子社
の北ふて岩田川
ふ合ふ北流ハ
石舟川とふ

末
三熊の一ふ称り
川のもの
頼を川の
社なり

まなこ
真砂村　乃成寺跡云
真名古庄司といふもじ
ありと

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

ようやく石ふり村
と云ふ海辺王子社
の茶屋にて岩田川
ふ合ふ上流ハ
石井川とよ
夫ゟ
三越のこゑより
川のもの
頼ゟ右の
社なり
忠望

三

ゟ
ゟ
ゟ

ゟ
ゟ
ゟ

ゟ
ゟ
ゟ

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

江川
川口番所
本海道
御城
海蔵寺
宗像神社
田處
蟻通祠
淺小泉
八幡祠
魚屋新田
愛岩山
池

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大霊鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大曇鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

湯滝　田邊江川あり
海上五里洋路八又里
ありといふ街道ふかうなり
本名湯戸庄路山村にし不温泉あり国史所謂
年壽湯古事ふ白良の走湯といひけむ湯指亡而
あり湯の湯是那の湯元の湯濱の湯足洗湯
なり白良濱ハ湯湯と瀬戸村の濱をうけ山も松を極
こゝし湯ふいより女のまゝものぼく尭たるおまもくさ
きけハ月ハもろくとひとしほの濱やもゝ色のまさこの数をいとゝなくしも無き松葉葉ふハ白
仕器のうへにおふ入たり催馬樂物ふ白濱紀伊路とも仕器との堺なりといふ説あり
あをいはおふ治定ハ紀伊路ふ白良濱仕器の名
いふおなるん白良濱古事ふ白濱とやいふ色ふ走湯といふ色ふ説ハ無根の内
濱古事ふ白濱とやいふ色ふ走湯といふ色ふ説ハ無根の内
濱古事ふ白濱とやいふ色ふ走湯といふ色ふ説ハ無根の内

濱木綿之圖

葉似萬年青春出萌芽夏花白色
潔甚似百合花其花重疊而開歌人
所詠題即此　秋結實形
巫女所持鈴實大而
纍々土俗謂之御幣草
亦呼曰濱萬年青

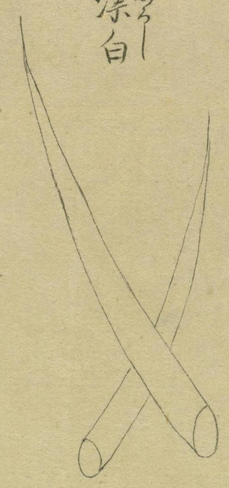
仙覺抄云熊野
浦のもゝ曲を濱
其仕器圓なりといふ説ふ
そを件の名有ふ云説ふ
濱也と濱ふ事を
ふ仕器の名ふ入たり
而なり紀伊ふ治定を但歌ふ神中ふを
説ある童蒙抄云大慶乃時ふ此あり洗ふ
といふなと性なる事あり新史識去の考を沿

山蘆之圖

熊野山中自然生相傳梁天子大嘗會

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

色潔白



而なり　紀伊まで治定を祖母ゆかりの神事ありと
説あり　童謡ありし大饗乃時をはじめ　ことに
ということなり　性なる事あり　熊野の浦へもあるやと
山蘞之圖
熊野山中自然生　相傳深天子大嘗會
之齋衣蔭原定家有詠山蘞袖歌
或云享保年大嘗會再興の節山苺
を採りまいらせしとぞ　後宮
嘗舞前無形ふ来ると山中ふく初童
のおもひふ苺のけを採ふ深るをそ
笑くを初童ふ事をいふ童の云をいふ都
の王ふれ汚夜を深る苺ふ
翁ふ思ふ男ひ十ふとをもく
玄達ふうをふ玄達云ふ別山蘞なりと往昔ふ苺のけをふく海老を
山中ふ初童ふ事ふ初童の戯とおもふ
江川　田舎の町の西の入口ふ
八山尤ハ海猟深ふひの
犢鼻巖　をくふめハ牛の伏ふ形ふく
幸山當山海門を望入
より丹塗ふ貝ハ他ふ
なり
犢鼻巖　角介之圖

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

○南邊　至切目二里

従是日高郡鹿嶋ハ海中小立名石古今あり　南邊峠片倉峠

樵茶屋そ名木の樵あり

千里濱　南の方巽ニて小又多の小石を又硬石(かたいし)とそ小石乃

かゝりたるけわしき名處なり

又ほとの民家ふかき濱

實を又黒ハ石炭なり　此濱

出るといふの里濱又千鳥濱

とも称(いふ)しもしなりとも

岩代村東西あり　むすび松

辺ニ一本ハ枯く一本実あ

むすびを日本紀乃

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

切目王子
不動堂
切目
宮鴻村
切目川
切目浦
切目崎
仰南大海
西岩代村
東岩代村
むまい松
岩代浜
観音堂
千里濱
川名石顔
○
切目　至印南
半里
きりめ　米里
切目山名と平治元年平清
盛熊野詣ふく返行家へ引渡されしも
しかわく追手京へ入乃伝西熊野へ多切
郡の王ふの前ふ法成と称し
切目川　まで牧　ふ郡境ホ
切目王ふ　祠ハ当年中記ホ又
許の王ふの一つなりとい社伝
小薬浜ふ多く採たり
元仏のはしめ火塔ふの高く
仏のしるし黒ことて今ふ
若ふし
いそ一畑の名

○印南　至小松原三里

小松原入海の小湊なり

鰯網を引く

椋井村

海濱漁者多く地引網

おく魚をとる

上野村

舟人多くすむ

普物作の法姫乃郷松若

といふ

地引あり

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

野浦村　此辺の橋を十二塚　第厩塚
俗説ともいふ
塔婆村　今は玉よけあれ
共時節なき為なり

十二塚
浦屋敷
浦面村
さや浦
野浦村
上野村
地引あり
北井岬
幾浦

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

万葉集 三十四
しのの乎る日高
の川と鈴鹿川
水とろ〳〵紀河
の路へ

小松原 五十原谷
三里
しげき笹原少く
茅萩多く路
含とら〳〵

吉田村

天田村

日高川

小松原

丹生山

芝原峠

船番所

湯屋谷

湯屋村

比井崎

熊ノ浦

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

○原谷（はらだに）　至井園　二里

鹿を集之
鹿の背山不知
夜鹿の名をきゝて
うつれうしまのやうよ
名を呼てや　その山の
鹿の鳴らん

日高
有田
郡堺

鹿瀬峠

原谷

興国寺

東光寺

茨城村
荻原村

横渡

門前村

里村

西内

国立国会図書館　　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　ヘ二-1

○井関　至湯浅一里半

○湯浅　至宮原一里半

逆川　走水

大海ノ名ヲ走水トイヒ逆川ノ潮ヲ走水トイフモ

為永

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

○湯浅至宮原一里半

逆川　走水　為氏

走湯名よくこゝろめし勢田河や
逆川の淵をいふ也

金葉集　前赤院尾張

来ぬ事と
名にこそ人も
なけれ
心ほそくも
なりまさる哉

赤飛峠

吉川村

里村

坂主峠

逆川

逆川よ

本海道

由良道

栖原

苅藻湾

夕ぐれ湾

走水湾

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

金葉集 前赤院尾張
弟子しらるる人もなく
久くれふ
心ほそくも
ゆきかふる哉

赤戒峠

雲雀山

得生寺

玉川村

里村

栖原

白浜嶽

施無畏寺

有田川

王子宮

宮原

小浜浦

北湊

椒浦

〇宮原 至加茂谷一里半

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

地蔵堂

御許之

岩屋山福勝寺

王子宮

松木村

加茂谷

下浜村

上吉田村

畑村

○加茂谷至蕪代一里
蕪坂と称白坂との間二五谷名の里なり

○宮原至加茂谷一里半
しげきみち多く
出る谷

大崎

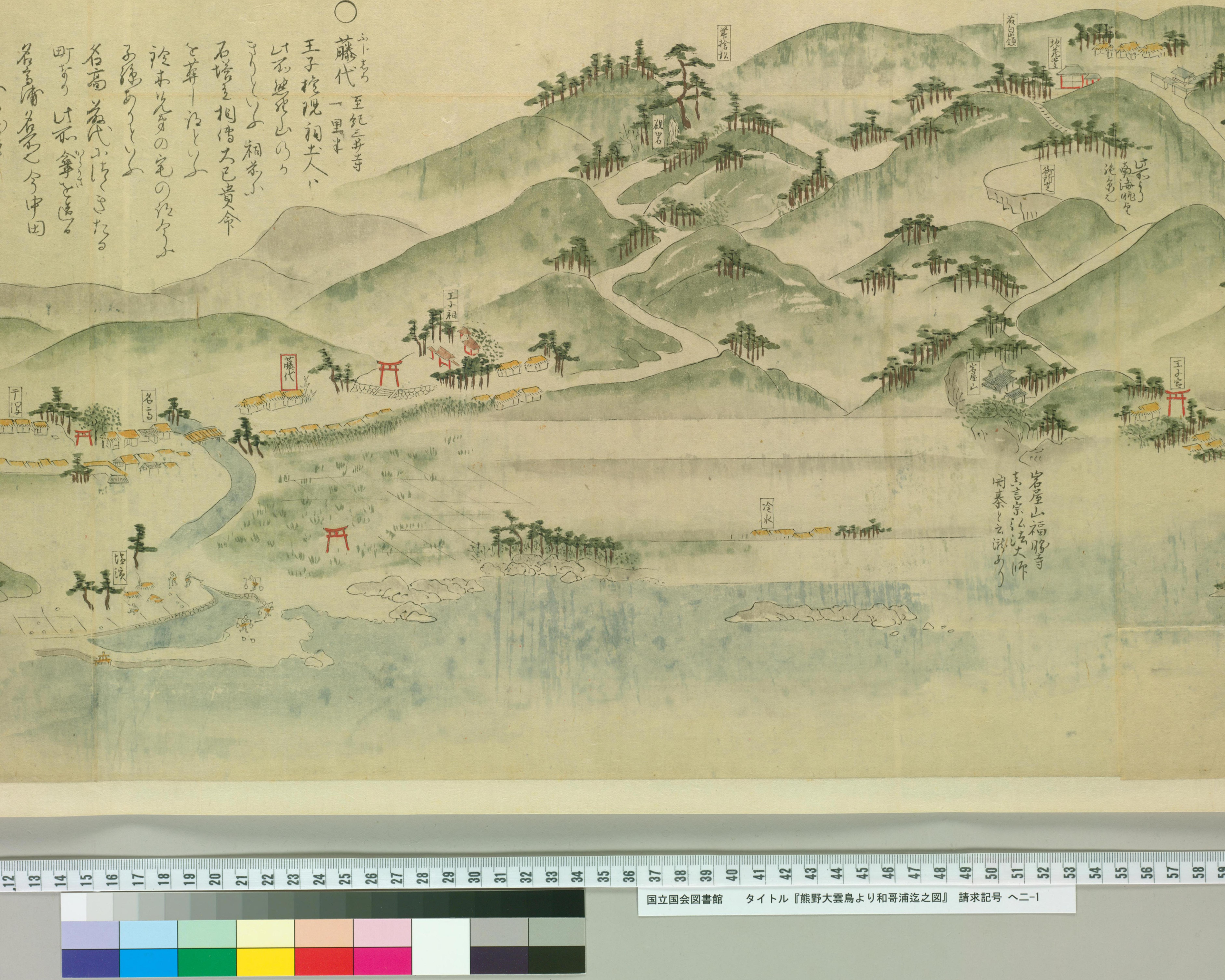
下津浦

椒浦

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

○ 藤代（ふじしろ） 至紀三井寺一里半

王子権現 祠官人いふ 此地熊野の入口なりとぞ 祠官ふ石塔を相伝ふ大己貴命を葬一名ともよ 按ずに此墓の宅の名ともよ 名高 義氏ふたくさきたる町なり 此傘（かさ）を置る 若干（そこばく）の中田



国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 ヘ二-1

を尊十ねといふ
祢宜の宅の
あるとぞ
名高 義氏ふたくさたる
町なり 社 傘を
名高浦 名之 今中田
とぞ
日方 富 多く 盤昌乃
前之
黒江 赤橋を 多く 名
紀州橋とぞ 詩 出
義氏名高 日方黒江
景通 弟一里東
町あり

黒江
日方浦
千浜
名高
日方南
浦浜

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

琴浦　濱文ハ宮ノ郷
名見村ニ在リ　本神宮
境内ノ松傳姫世況ニ
ヨリテ
吏朱集
春風ニ波ノ名ヲ
路ノ松ニ琴ノ浦ハ
仲忠

○紀三井寺　至若山二里
若山ニ詳ニ
ヲ合掌ス

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 ヘ二-1

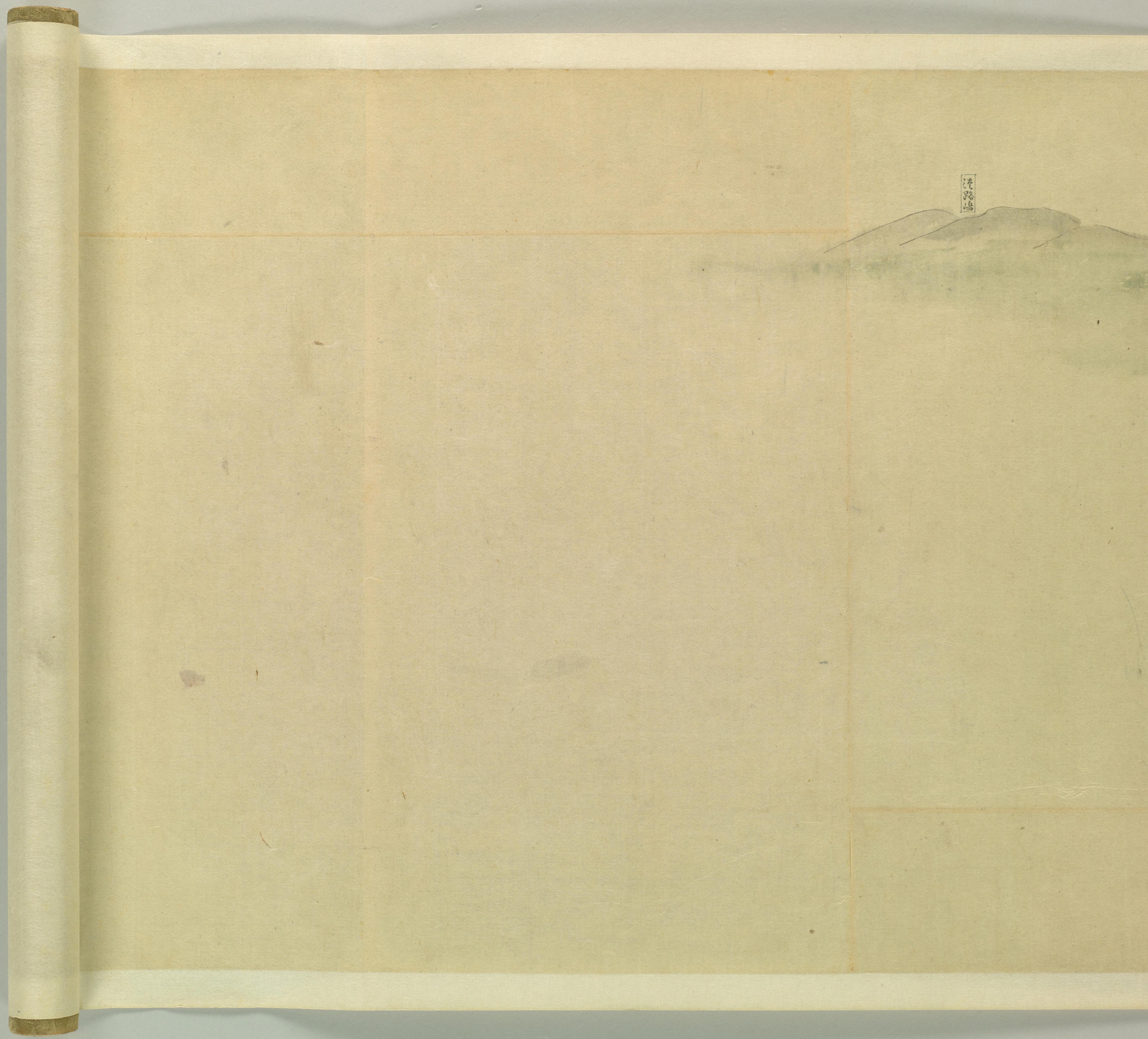
○紀三井寺　至若山
名草山の麓にあり
二里
を今剛宮ともいふ
よし

名草山
紀三井寺
小雜賀
清かつら
妙見堂
清渡
妹背山
奉安殿
舟ノリバ
渡ヨリ妹背山ヲ経テ厳へ十八丁
紀三井寺
布引松

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号　へ二-1

国立国会図書館　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1



国立国会図書館　　タイトル『熊野大雲鳥より和哥浦迄之図』　請求記号 へ二-1